

多治見高生による効果検証を含めた水辺の小さな自然再生 ～土木研究所自然共生研究センターでの実習1～

今年度多治見高校では、「効果検証を含めた水辺の小さな自然再生」の研究を公益財団法人河川財団に支援していただいています。最終的な目的は多治見市内の河川で、行政や学術団体の方と連携を取りながら、小さな自然再生を行うことです。

7月26日に、本校の自然再生研究に協力して下さる自然共生研究センターへ行ってきました。午前中には、川の構造と生態系との関わりに関する講義を受講しました。その後、自然共生研究センターの実験河川(コンクリート2面張り)を多治見高校生の考えで、魚が棲みつくような川に変える(自然再生)実習を行いました。今回、実験のために自由に使える川を約2か月お借りする貴重な機会をいただきました。

実習では、まず自然再生の取り組みをする前に、現在の実験河川の流速や水深、生息している魚の数と種類を調べました。その後、自然再生の取り組みを行いました。自然再生は具体的には、石を川の中に積んで川の流れや水深を変化させました。どの班も暑い中、自分たちの計画に沿って石を積んでいました。各班創意工夫に富んだ石積みを行いました。その効果(魚の種類と数が増えるか)は9月に再度自然共生センターを訪れて自分たちで調べます。



研究員の森照貴さんの講義



実習で使う石は自分たちでトラックの荷台へ



荷台いっぱい石を積みました。



石を川に積む前に流速や水深を測ります。



黙々と各班の計画に沿って石を積みます。



いろいろな生き物とも触れ合えました。
手にしているのは70cm超のカムルチー

<生徒感想>

魚の住処を想像しながら石の積み方を考えるだけでも楽しかったが、石の積み方で水の流れが大きく変わっていくのを目の当たりにしながら作業できて楽しかったです。石を積む前後で流速を測り、数値でもその差が明らかになり、データを取ることの大切さも理解できました。

実習で河川のいろいろな魚を調べたことで外来種が思っていたより多く生息していること、今回の石を積むことのように私たちが少し手を加えるだけで川の状態が変化することなどの新しい発見ができ、とても勉強になったし、楽しかったです。今回はグループで協力する場面が多かったのですが、グループ内の意思疎通をさらに図るために、次からはもう少し自分も率先してグループの話し合いに参加したいと思いました。

担当：佐賀達矢・杉本真弥・下総郁子